

科目名	人体の美と科学 I		Subject	Beauty & Science of Human Body I				
サブタイトル	美容にかかわる人体の皮膚科学（皮膚のしくみと働き）							
科目基本情報			ディプロマポリシー「主な学習効果」					
開講年次	開講時期	必修／選択	DP1 知識・技能	DP2 主体的行動力	DP3 課題解決能力	DP4 多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	DP5 日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	DP6 美しく生きる力を実践できる能力
2 年	前期	選択						
授業形態	単位	時間						
講義	1 単位	30 時間	◎		○			
ゲストスピーカー招聘回		なし						
教員名	森 優紀			メールアドレス	yuuki.mori@・・・			
教員の略歴	2013 年 東邦大学大学院 医学研究科看護学専攻 博士課程修了 博士(看護学)、看護師、保健師、行政書士、3 級ファイナンシャル・プランニング技能士等の資格を保有 著書「看護学テキスト NiCE 成人看護学概論」2010 年、論文他							
実践的教育	○ 保健師・看護師：保健師としての経験を活かし、具体的な事例を盛り込んだ授業構成としている。							
オフィスアワー	別途一覧をご確認ください。							

科目の概要																	
本科目では、皮膚とその付属器官について体系的に学ぶ。美容領域においては、実際の人の皮膚、毛髪、爪に触れ、施術をする。それらの構造や機能を知り理解することで安全に、効果的に技術を施すことができるであろう。よって、授業においては、美容技術の実践において役に立つ知識の習得を目指す。最終的には、皮膚や付属器官の構造、機能を知り、それらのトラブル、疾病、対処法を学び理解することで、美容上の課題に対し適切な対処ができることを目的とする。																	
授業方法																	
対面		オンライン		ハイブリッド		ディスカッション		プレゼンテーション		作品制作							
○		-		-		-		-		-							
授業の目標と関連するディプロマポリシー（DP）																	
ディプロマポリシー		授業の目標															
DP1		ヒトの皮膚と付属器官のしくみや働きが述べられる															
DP3		皮膚に関する課題を解決するためにデータを活用することができる															
教科書・教材																	
教科書		保健，日本理容美容教育センター，2026 年															
参考文献		人体最強の臓器 皮膚のふしぎ，椋島健治，講談社，2022															
各自準備教材		なし															
評価方法																	
筆記試験		実技試験		受講態度		小テスト		レポート		プレゼンテーション		作品		課題		その他	
50%		-		10%		-		-		-		-		40%		-	
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。																	
課題（試験やレポート）のフィードバックの方法																	
毎回課題の解説をします。																	
履修上の条件・注意																	
自分自身の出欠席数の把握は自己管理とする。classroom、メールをよく確認する。 ※何らかの社会的な状況変化等の諸般のやむを得ない事情により、授業方法、授業計画、評価方法等を変更する場合がある。																	
本科目履修と関連する資格																	
なし																	

授業計画				
	授業内容	到達目標	時間外学習（予習・復習）	時間(分)
第 1 回	オリエンテーション 皮膚の構造 1) 皮膚の表面と表皮のしくみを学ぶ	表皮のしくみが述べられる	・授業の内容については予習と復習が求められる。 ・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 2 回	皮膚の構造 2) 真皮、皮下組織のしくみを学ぶ。	真皮と皮下組織のしくみが述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 3 回	皮膚の付属機関の構造 1) 脂腺と汗腺のしくみを学ぶ。	脂腺と汗腺のしくみが述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 4 回	皮膚の付属機関の構造 2) 毛と爪のしくみを学ぶ。	毛と爪のしくみが述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 5 回	皮膚の血管と神経 1) 皮膚血管の役割について学ぶ。	皮膚の血管の役割が述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 6 回	皮膚の血管と神経 2) 皮膚の感覚機能に係る神経について学ぶ。	皮膚の神経の種類が述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 7 回	皮膚と付属器官の生理 1) 皮膚の生理作用（保護・体温調節・知覚・反射）について学ぶ。	皮膚の生理作用が述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 8 回	皮膚と付属器官の生理 2) 皮膚の生理作用（分泌・排泄・再生）と毛と爪の役割について学ぶ。	皮膚の生理作用と毛と爪の役割が述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 9 回	皮膚と付属器官の保健 1) 精神・栄養・体内病変が皮膚に与える影響について学ぶ。	精神・栄養・体内病変が皮膚に与える影響が述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 1 0 回	皮膚と付属器官の保健 2) 水分・脂・ホルモンが皮膚に与える影響について学ぶ。	水分・脂・ホルモンが皮膚に与える影響について述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 1 1 回	皮膚と付属器官の保健 3) 皮膚の状態にあわせた皮膚・爪・毛のお手入れ方法を学ぶ。	皮膚の状態に合わせたお手入れ方法が述べられる	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 1 2 回	皮膚と付属器官の疾患 1) 発疹、皮膚炎について学ぶ。	発疹の種類と原因について説明できる。	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 1 3 回	皮膚と付属器官の疾患 2) 蕁麻疹、薬疹、温熱・寒冷による皮膚障害について学ぶ。	蕁麻疹、薬疹、温熱・寒冷による皮膚障害について説明することができる。	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 1 4 回	皮膚と付属器官の疾患 3) 感染性の皮膚疾患について学ぶ。	感染性の皮膚疾患の種類と病態について説明することができる。	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 1 5 回	皮膚と付属器官の疾患 4) 毛と爪、その他皮膚トラブルについて学ぶ。これまで学んだ学習を統合してかんがえることができる。	毛と爪、その他皮膚トラブルの種類、病態について説明できる。皮膚トラブルの予防、ケアについて説明できる。	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習：これまで学習したテストや課題の内容を復習する。	60 分